

**第2回小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会
まちづくり部会**

議事録

日 時：2015年12月22日（火）13:00～15:00

会 場：小山市役所 別館 会議室3

出席者：（委員）16名出席、5名欠席

（オブザーバー）1名出席

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

（1）第1回小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会

まちづくり部会・新交通システム部会（合同会議）の意見の確認

会 長：小山市総合戦略の数値目標はリアリティのある数値、必達目標という位置なのか。

事務局：現況値および平成31年度の目標値については、手元に詳しい資料がないが、夢物語の目標値ではなく検討を踏まえ設定をしている。

会 長：新しい人の流れとして、観光客が増える、転入者数が増える、定住意向が増えるなどかなり具体性が必要である。総合戦略についても会議の材料の一つとして考えられる。

A委員：資料をみんなに見せては良いのではないか。

B委員：中心市街地との接続が良いことが本地区の強みだと思う。市民アンケートの結果を見ると高齢者の方がお買い物などの利便性を求め中心市街地に住みたいと考えられる。小山東ニュータウンなどの今後の人口推移はどのように見込んでいるのか現況を教えてください。

C委員：ニュータウンには現在850軒の方が住んでいる。自治会員は805軒。入れ替わりもあり数字の上では会員数の変化はほぼない。住宅を購入した方たちが定年を迎え始め、老夫婦などが増えている。2025年には半分の人が65歳以上になるという試算をしている。新しい方、若い方の流入は多くない。小学生は60数名ほど減ってきている。そのため、高齢者にやさしいまちづくりをしている。バスが2系統あり、生活利便性が高く、高齢者でも楽しいまちというアピールしたい。

（2）高岳引込線地区まちづくりの方向性について

会 長：高齢者のまちづくりということで、大事なのは歩くという視点。歩くという視点から見ると魅力的な部分がいまひとつ少ないように感じる。

D委員：私の住んでいる地区は毎年50軒程度世帯数が増えている。区画整理の遊歩道が整備されているが、町内の人は歩いていない、高専の学生が歩いている程度。地域に交流センターがない。

大企業が立地していることを何かに活かさないか。工場が放出している排熱などをエネルギーとして使えないか。

会 長：昨年調査して、放熱量は大きいことが分かっている。しかし、それを地区に貢献するのは多大な費用が必要で今すぐは難しいが、行政からの補助金が出る建替え等のタイミングで地区に貢献することは十分に考えられる。

A委員：人口増加している沿線地区と人口減少している沿線地区があるので、そこをつなげるの方が大事でないか。大きな街を新しく作るという話ではない。柏の葉キャンパスなどを例として挙げられても現実とそぐわない。

会 長：事例については、最新の取り組み情報として提示した。

A委員：小山市全体の話と地区の話が混在している。沿道などそこに住む人の利便性などもっと小さい単位に特化した話をすべきではないか。もっと身近な話で現実的なものの提案がほしい。

会 長：この街に即した議論をしていきたいが、事例の中にも実現できれば面白いこともあると思う。

B委員：資料の美術館などを結ぶルートは結城街道で交通量も多い。裏通りなどのほうが歩くのに適切ではないか。人が減っている地区と増えている地区とがあり、大規模な開発に着眼するのではなく、ニュータウンなどの再活性化の方法を探るのが良いのではないか。市からの補助金等を活用し既存の自治会に入ってもらえるようにすることなどが考えられる。

C委員：自然の豊かさに価値を見出して住んでいる人もいるので、自然を損なう開発は受け入れられないのではないか。高岳引込線の先に散歩道に適しているところがあるので自然を活かしたまちづくりをもう少し広い範囲で考えた方が良いのではないか。また、健康に着目すると沿線に診療所が多くある。

会 長：首都圏から那須塩原に自転車目的で来る人がいるなど、良い案だと思う。また、民間病院の資料は次回に示すようにしたい。

E委員：税金が減ることを懸念事項にしているが課題ではあげていない。またL R Tについての前提が見えない。前回までの会議で決まっていることを教えてもらいたい。

事務局：税金減少の懸念は間違いなくあり、マイナス面もしっかり記すようにする。新交通システムの前については、もちろんL R Tもあるがそれ以外の方法もある。今回はシステムよりも沿線まちづくりを議論することを考えている。今回の事務局資料では即地的な話でない部分があったが、まちづくりの話であるということをご理解いただきたい。

F委員：工場の緑やグラウンドを住民が使わせてもらえるなら、資料では緑地や公園として整理しても良いのではないか。

G委員：インタビューの調査結果で、デメリットについても話すべきではないか。L R Tの話をするときにまず課題として考えたのが渋滞の問題。このような点についても会議の場で議論できればいいと思う。

会 長：インタビュー結果にはデメリットも記すようにする。

以上